

新国立劇場 2026/2027 シーズンオペラ

「イタリアのトルコ人」
セルム役 出演者変更のお知らせ

平素は格別のご厚誼にあずかり、厚く御礼申し上げます。

新国立劇場 2026/2027 シーズンオペラ『イタリアのトルコ人』(2026年10月2日(金)初日)におきまして、セルム役のジョルジ・マノシュヴィリは本人の都合により出演できなくなりました。代わって、アレハンドロ・バリニャス・ビエイテスが出演いたします。

なお、この変更に伴う払い戻しはありません。

報道各位におかれましては、本情報の一般の皆様への周知にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

<新キャストプロフィール>

アレハンドロ・バリニャス・ビエイテス(バス)

Alejandro BALIÑAS VIEITES



スペイン出身。2021年から23年までパリ・オペラ座アカデミーに、23/24シーズンはパリ・オペラ座に新設されたカンパニーThe Opera Troupeに在籍し、同劇場で『ポッペアの戴冠』セネカ、『絹のはしご』ブランザック、『カルメン』スニガ、『シモン・ボッカネグラ』ピエトロなどの役に出演。アカデミー在籍中、優れた表現力と将来性によりAROP賞、カルポー賞を受賞。21年にペーザロのロッシェニ・アカデミーに参加し、『ランスへの旅』ドン・プロフォンドに出演後、22年、24年のロッシェニ・オペラ・フェスティバルにも登場。23年にはザルツブルク音楽祭ヤング・シンガーズ・プロジェクトに参加し『ギリシャ受難劇』に出演。24年「新しい声」コンクール第1位及び観客賞、若い観客賞、パタゴニア特別賞受賞。24年セビリア・マエストランサ劇場『トゥーランドット』ティムールに出演。これまでに、パリ・オペラ座、ソフィア王妃芸術宮殿、ベルリン・ドイツ・オペラ、バーゼル歌劇場、アン・デア・ウィーン劇場などに登場。クリストフ・ロイとの協働でも伝統に新風を吹き込んでおり、若手バス歌手をリードする存在である。25/26シーズンはデ

イジョン歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』レボレッロに出演したほか、リセウ大劇場『フィガロの結婚』フィガロに出演予定。新国立劇場初登場。

【資料・写真のご請求、本記事に関するお問い合わせ】

(公財)新国立劇場運営財団 制作部 オペラ広報:高梨木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709 E-mail:takanashi_y1307@nntt.jac.go.jp